

# Brisbane State High School (州立ブリスベン高校)

2005年3月15日(月)訪問

参加者：川上先生、石井先生、塙、原田、岡田、藪本

## 1. ブリスベン高校の概要

州立ブリスベン高校は、8年生から12年生まで、約2000人の生徒が通う大きな学校で、ブリスベン川をはさんでブリスベン City の向かい側の **South Bank** に位置する。都市部にありながら、広大なキャンパスをもち、充実したスポーツ施設、美術棟などの専門教育施設、コンピュータ設備がそろった恵まれた環境にある。

州立高校は、通常、学区の生徒を無試験で受け入れるのだが、このブリスベン高校は入学試験を課す唯一の州立高校である。学区の生徒を無試験で受け入れた後、定員に余裕がある場合に限り、学区外の生徒に選考試験を課し、受け入れるのである。選考は、学力部門、スポーツ部門、美術、音楽部門などに分かれており、それぞれに秀でた生徒がブリスベン中から集まってくるのである。大学進学を希望する生徒も多く、各授業で課題が多く、生徒たちは毎日勉強することを期待されている。

生徒たちの様子は自由で活発な雰囲気と言える。制服や学校指定のスポーツウェアを思い思いに着こなし、休み時間には中庭でフットボールをしたり、廊下でおしゃべりをしたりして楽しんでいる。生徒たちの肌の色も様々で、白人の生徒たちに混じってアジア系(中国、韓国、ベトナムやインド系など)やパプアニューギニアなどの大洋州系の生徒もかなりの数見られる。中国系の生徒は人数が多いこともあり、中国語で会話をする様子がよく見られる。

## 2. ブリスベン高校での日本語教育

ブリスベン高校では、日本語のほかに、フランス語、ドイツ語、現代ギリシャ語、イタリア語の5つの **LOTE** からひとつまたは二つを、8年生、9年生の間に2~3学期間履修することが義務付けられている。日本語を履修している生徒は、8, 9年生で約130~150人、自由選択の学生で約130人ほどであり、5言語の中でもっとも人気のある言語である。8, 9年生では1クラスの人数が約30人、11, 12年生では約15~20人くらいである。日本語の教員は全部で7名で、**LOTE** 全体の **Head of Department** も日本語の **Bronwyn Dewar** 先生である。また、2年に一度、11年生の希望者を連れて日本ツアーを行ったり、日本との交換留学を行ったりと、日本との関わりも深い。

授業では、8年生から12年生まで教科書『**Mirai**』を使用しており、学期末のプロジェクトでは、パワーポイントを使ったプレゼンテーションや作文などが課される。

## 3. バーチャルスクーリング

ブリスベン高校では、対面式の授業のほかに、バーチャルスクーリングとして、電話回線やインターネットを使った遠隔日本語授業も提供している。これは、ブリスベン市内外で、日本語の授業を提供できない高校で日本語を希望する学生を対象にした授業である。日本語の授業が提供できない理由としては、**Senior secondary** で日本語を希望する生徒が

少なすぎでクラスを開講できない、日本語教員が確保できないなどの理由がある。

バーチャルスクーリングは主に 11, 12 年生を対象にしているが、実験的に 8 年生を含む Junior secondary の生徒への授業も行っているようだ。教師一人に対して生徒は 15 人ほどで、2, 3 校の生徒たちが電話でつながってクラスを構成する。授業で使う機器は、ヘッドセット、PC、手書きペنツールなど。授業によっては、実物投影機や顔を映し出すビデオ会議の機材をしようすることもあるようだ。通常はお互いの顔を見ずに、音声や PC 画面上での文字のみで授業を進めるため、テンポよい授業が求められる。

バーチャルスクーリングを履修する生徒たちはある程度成績もよく、授業態度もよいことが要求されるが、中には学習意欲が低く授業態度も悪く、遅刻や欠席、課題の提出を怠る生徒などもおり、空間を共有しない生徒のクラス運営が難しいという側面も見られた。

#### 4. 見学した授業

見学した日は 1 学期も終わりに近かったため、学期末のアセスメントに向けて生徒たちが準備をしていた。9 年生は『わたしのペット／絶滅の危機にある動物』について調べた日本語の原稿を、PC ルームで日本語にタイプしていた。これは、次の週にパワーポイントやポスターを使いながら口頭でプレゼンテーションをする原稿だそうだ。生徒たちは今まで習った「～はしっぽがながいです」や「～はにわであそびます」などの表現を使いながら、それぞれに工夫して日本語で文章を作っていた。また、パワーポイントのスライドを作っている生徒たちは、自分で撮影したペットの写真や、インターネットの写真を使ったり、デザインに凝ったりと、思い思いの工夫をしていた。われわれ一行は生徒の質問に答えたり、生徒の原稿をチェックしてあげたりした。生徒たちは、私たちが言った日本語の単語をきちんと聞き取って間違うこともなく入力していて、彼らのリスニング力の確かさに感心した。

11 年生の授業では、教科書 Mirai を使った授業が行われていた。川上教授が Mirai の執筆者の一人と聞くと、生徒たちは歓声を上げ喜んでいたのが印象的だった。授業では習った文型を使った会話練習をしていたので、われわれも参加して、生徒たちの相手をつとめた。日本語の必修は 9 年生までで、11, 12 年生で履修する科目は大学入試の成績にも影響するので、11 年生で日本語を履修している彼らは日本語学習に対する意欲や関心が高い生徒たちだという印象を受けた。また今までに学習してきたいろいろな文型や語彙を使って、自分の言いたいことやおもしろいことを日本語で言おうと工夫する姿も見られた。

#### 5. おわりに

今回の訪問に対し、ブリスベン高校の先生方は大変あたたかく歓迎してくださり、お忙しい中、私たちのためにランチまで用意してくださった。ブリスベン高校ではワーキングホリデーや語学留学で在住している日本人の日本語アシスタント（ボランティア）の受け入れも多く、日本とのつながりや日本人ネイティブに生徒が触れる機会も多い。リソースや日本語能力の高い教師陣にも恵まれている。その環境を生かして、クィーンズランド州の日本語教育の中核として質の高い日本語教育を対面の授業やバーチャルスクーリングで発信し続けていってほしいと強く思った。